

第1回協議会だより 《東方部》



—令和4年5月11日（水）15:00～16:40 総合福祉センター 3階研修室—

【実践発表】 郡山市立芳山小学校

「スタートカリキュラムの実践」～子どもたちが安心できる環境づくりをめざして～



「人とのつながり」「安心感」



「子どもと先生」「先生と先生」
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり
「先生と先生」のつながり

芳山小学校は、18施設と多くの幼稚園や保育園から入学をしているため、子どもたち一人ひとりの姿や思いに寄り添いながら、安心できる学校生活を送れることを最優先に考え、スタートカリキュラムの実践を行っている。

実践例として、一日の生活の流れや各教科の中で、人間関係の構築や視覚的なサポート環境を整備した取り組みについての紹介が行われた。

数多くの施設から入学した子どもたちへ、先生方はとても丁寧に関わっており、「なかがまがいるよ すこしずつできるよ」と自己肯定感や自己有用感を高めていけるような声掛けを日頃から行っている様子について発表がされた。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 芳山小学校の発表について

- 先生方の丁寧な指導により、児童にとって「学校が楽しい」という安心感に繋がっている。
- 幼稚園、保育所での経験が小学校で生かされ、学びの連続性が感じられた。
- クラスや学年同士の他に、異学年との交流の場を設けて、子どもたちの心を繋いでいる。
- 教科に遊びの要素を取り入れ、視覚的な環境を整えることで児童の支援体制が出来ている。

☆ アプローチカリキュラムからスタートカリキュラムへの連携について

- スタートカリキュラムを実践することにより、スムーズな学校生活が送れると思う。
- 保護者の不安も取り除いてあげることで、児童、保護者とより良い関係が作れる。
- 特別支援の児童が増える中で、今後は幼・保・小連携を更に深めたい。

☆ コロナ禍における保育（教育）の取り組み

- マスク着用で子どもの表情がよくわからない場合もあるが、給食時等に子どもの表情をよく見て確認している。

《参加者からのアンケートから》

- スタートカリキュラムの基盤となるよう、アプローチカリキュラムを計画し実践していくことの重要性を感じた。（保育所：女）
- 令和4年度版 郡山市版スタートカリキュラムを参考に勉強していきたい。（幼稚園：女）
- コロナ禍での様々な工夫や悩みを共有することができ、とても参考になりました。（小学校：男）

「相互参観だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。